

社会福祉法人初穂会
令和元年度

事業報告



特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園
短期入所生活介護
通所介護
居宅介護支援

ほっとスペース稲毛ペコリーノ

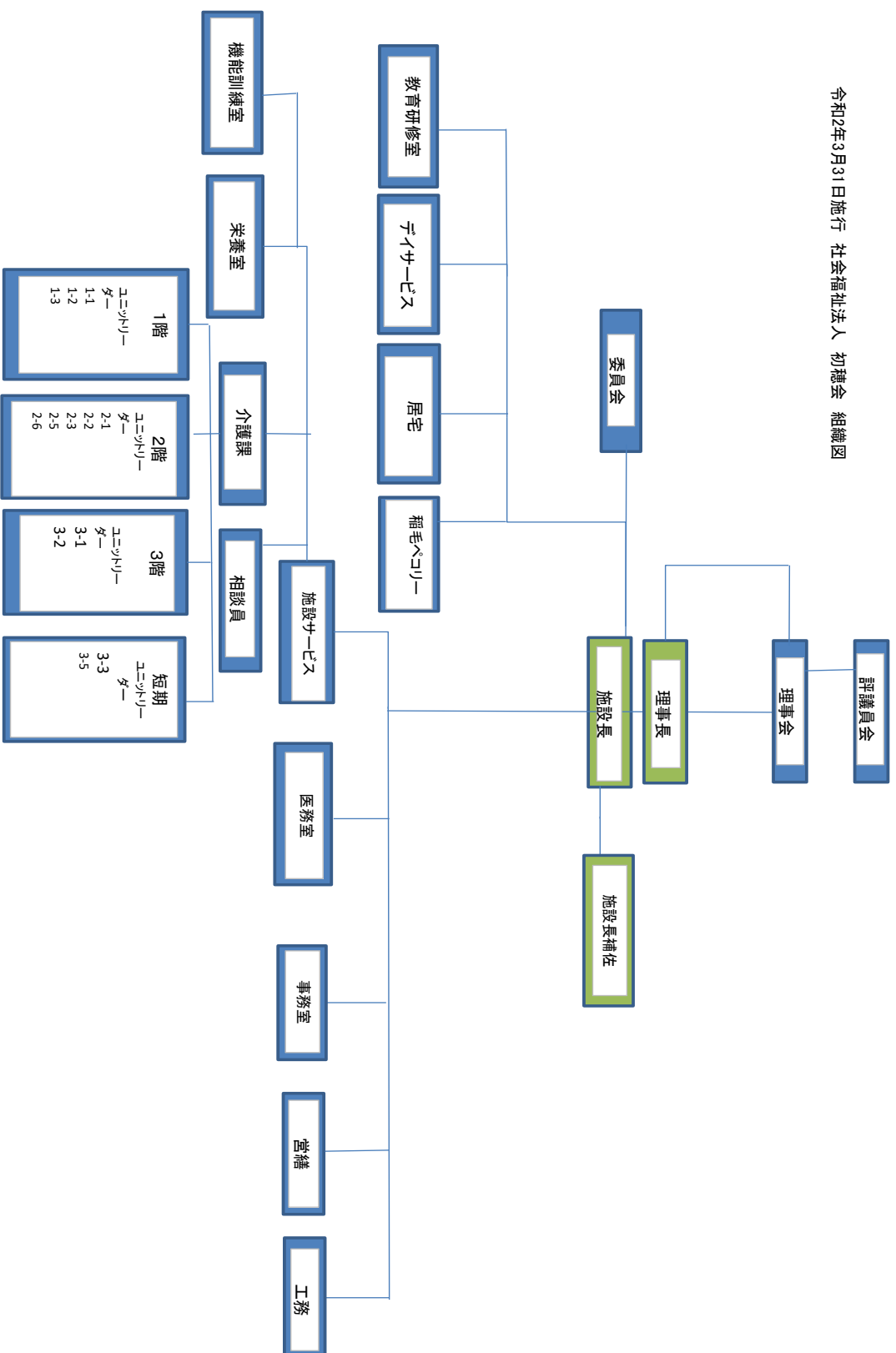
-目次-

- 1 令和元年度 社会福祉法人 初穂会 役員名簿・組織図・事業報告概要
- 2 令和元年度 事業実績報告
- 3 令和元年度 各部門実績報告
 - 3-1 医務部門
 - 3-2 生活相談員部門
 - 3-3 介護支援専門員部門
 - 3-4 栄養部門
 - 3-5 短期入所生活介護部門
 - 3-6 介護予防通所介護・通所介護部門
 - 3-7 居宅介護支援部門
 - 3-8 ボランティア部門
 - 3-9 機能訓練部門
 - 3-10 事務部門
 - 3-11 研修部門
 - 3-12 営繕部門
- 4 各委員会実績報告
 - 4-1 安全対策委員会
 - 4-2 衛生委員会
 - 4-3 褥瘡対策委員会
 - 4-4 防災委員会
 - 4-5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会
 - 4-6 広報行事委員会
 - 4-7 身体拘束・虐待防止委員会
 - 4-8 教育研修委員会
 - 4-9 排泄支援委員会
 - 4-10 入浴委員会
- 5 地域福祉部門
- 6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

令和2年3月31日現在

理事会・評議員会名簿		
職種	氏名	任期
理事長	林 隆春	令和3年定時評議員会まで
理事	勝山裕則	令和3年定時評議員会まで
理事	鳥越浩	令和3年定時評議員会まで
理事	上本忠雄	令和3年定時評議員会まで
理事	松崎泰子	令和3年定時評議員会まで
理事	本岡敏郎	令和3年定時評議員会まで
監事	渡邊文雄	令和3年定時評議員会まで
監事	松原忠司	令和3年定時評議員会まで
評議員	室伏佑香	令和3年定時評議員会まで
評議員	高橋和男	令和3年定時評議員会まで
評議員	野上正江	令和3年定時評議員会まで
評議員	時田美奈	令和3年定時評議員会まで
評議員	野中隆広	令和3年定時評議員会まで
評議員	内藤栄一	令和3年定時評議員会まで
評議員	鳥屋部浩則	令和3年定時評議員会まで

令和2年3月31日施行 社会福祉法人 初穂会 組織図



令和元年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

令和元年度は、職員不足から3月16日～2丁目1番地ユニットを閉鎖することになった。特に夜勤業務する職員不足が深刻で間接部門がヘルプで入る状態だった。その打開策として、夜勤専従職員、派遣職員の採用にて7月16日～ユニットを再開することが出来た。

稼働率も85%まで落ち込みましたが3月末にて入居者87名稼働率93%まで回復し4月以降には満床していく。

介護部門は、ユニット閉鎖もあり、派遣職員を合計17名入れユニット再開し、常勤職員を採用強化し派遣職員と入れ替え3月末までには3名まで減少した。また、11月より宿直を廃止し夜勤者7名にて宿直業務を補い業務にあたり間接部門の経費削減に努めてきた。

また、地域福祉として今まで取り組んできた地域カフェ、こども食堂に続き千葉市社会福祉協議会と連携し買い物支援の実践が出来た。更に、フードバンク、移動スーパーをはじめ地域住民や生活困窮者の支援を継続し職員採用にもつなげていきたい。

令和2年度は介護人材不足は稲毛ペコリーノ活用した職員獲得、学校訪問での新卒採用、引き続き外国人採用（技能実習、日系人）推進していき教育研修室中心に新入職員、施設内研修にてケアに対する知識向上に努め安定した施設運営を目指す。

新型コロナウイルス感染拡大がある中で、2月中旬より面会禁止、外部からの業者立ち入りを遠慮していただき、施設内での感染は防ぐことができた。また、感染対応は長期化していく恐れがあり4月以降も感染委員会中心に予防につとめていく

社会福祉法人初穂会 理念

“生きる力の輝きを称え共に歩んでいきます”

高齢者や障害者を含む地域の全ての人が互いに助け合い大切さにされ、自分らしく生活できる“時間と空間作り”を通して笑顔と思いやりに満ちた社会の実現を目指します。

基本方針

- 1.利用者一人ひとりにあった暮らしの支援
- 2.利用者の思いの尊重
- 3.地域と共に築く施設
- 4.利用者に共感出来る職員
- 5.利用者の信頼に応える人材育成

令和元年重点目標

1.人材確保、育成「人を活かして育てる」

⇒上半期は採用活動が進んでおらず人員確保出来ず夜勤者不足に悩まされた。夜勤回数や時間外勤務が増加し職場環境の悪化が見れた。ユニット閉鎖にもつながってしまった

2.一人、ひとりの尊厳を保ち個々の状況応じたケアの提供

⇒24時間シートを活用し個々の生活、好み把握しケア

3.地域連携、貢献、地域に根付いた施設運営

⇒地域カフェ、こども食堂に続き、買い物支援も実践できた。秋祭り開催時は、萩台天台あざみ会、萩台わかば会と連携しお祭り開催できた。

2 令和元年度 事業実績報告

介護保険者別入所者状況 ()内は平成30年度末時点

	保険者	地区	在籍	申込	優先入居
千葉	千葉市	稲毛区	41(36)	55(56)	18(20)
		中央区	9(9)	8(8)	3(0)
		花見川	7(6)	10(4)	5(0)
		若葉区	15(10)	22(25)	7(9)
		緑区	0(0)	0(0)	0(0)
		美浜区	6(6)	8(6)	2(3)
他			11(13)	25(21)	6(3)
計			89(80)	128(120)	41(35)

待機者状況

	期首	期末	入所
性別計	120	128	37
男	40	45	
女	80	83	
自宅	52	52	11
グループホーム	3	3	1
病院	19	23	10
介護老人保健施設	23	24	5
特別養護老人ホーム	1	4	4
他	22	22	6

月別入所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初	80	79	81	80	83	87	85	86	86	83	86	87	
入所	1	2	0	5	5	5	3	3	2	4	4	3	37
退所	2	0	1	2	1	7	2	3	5	1	3	1	28
月末	79	81	80	83	87	85	86	86	83	86	87	89	

<稼働率>

() 内は 2018 年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4 月	2413 (2670)	89.4 (98.9)	89.4 (98.9)
5 月	2406 (2736)	86.2 (98.1)	87.8 (98.5)
6 月	2406 (2624)	89.1 (97.2)	88.2 (98.0)
7 月	2363 (2710)	84.7 (97.5)	87.4 (97.6)
8 月	2366 (2696)	84.8 (96.6)	86.8 (97.6)
9 月	2420 (2619)	89.6 (97.0)	87.3 (97.5)
10 月	2591 (2742)	92.9 (98.3)	88.1 (97.6)
11 月	2519 (2633)	93.3 (97.5)	86.8 (97.5)
12 月	2572 (2751)	92.2 (100.3)	89.1 (97.7)
1 月	2628 (2685)	94.2 (96.2)	89.6 (97.6)
2 月	2400 (2458)	92.0 (97.5)	89.8 (97.6)
3 月	2582 (2391)	92.5 (85.7)	90.1 (96.6)
計	29,666 (31,715)	90.1 (96.7)	88.4 (96.6)

年齢状況

区分	男	女	計
69 歳以下	0	0	0
70 歳から 79 歳	4	7	11
80 歳から 89 歳	6	23	30
90 歳から 99 歳	5	40	45
100 歳以上	0	4	4
計	15	74	89
平均年齢	85.6	90.2	87.9

介護度別状況

介護度	男	女	計
1	0	1	1
2	0	0	0
3	5	25	30
4	6	33	39
5	4	15	19
合計	15	74	89
平均介護度	3.9	3.8	3.85

<面会者>

	件数	人数
4月	509	675
5月	560	742
6月	477	672
7月	526	685
8月	574	780
9月	598	820
10月	618	824
11月	609	831
12月	651	889
1月	653	912
2月	280	366
3月	7	8
計	6,062	8,204

<短期入所稼働率>

()内は平成30年度

	実績	稼働率	累計稼働率
4月	508 (537)	94.1 (99.4)	94.1 (97.7)
5月	550 (530)	98.6 (94.9)	96.4 (96.3)
6月	510 (528)	94.4 (97.8)	95.4 (87.1)
7月	518 (521)	92.8 (93.4)	94.1 (95.3)
8月	543 (518)	97.3 (92.8)	95.7 (94.1)
9月	520 (463)	96.3 (85.7)	96.0 (89.9)
10月	554 (527)	99.3 (94.4)	97.7 (92.2)
11月	559 (481)	103.5 (89.1)	100.6 (90.7)
12月	584 (547)	104.7 (98.0)	102.7 (94.4)
1月	554 (531)	99.3 (95.2)	101.0 (94.8)
2月	541 (476)	103.6 (94.4)	102.3 (94.6)
3月	526 (519)	94.3 (93.0)	98.3 (93.8)
計	6,467 (6,178)	98.2 (94.0)	97.9 (94.2)

居宅介護支援稼働率

(要支援→0.5換算) (3月より介護支援専門員3人体制)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実績(人)	72	68	69	71	73	71.5	67.5	71.5	67.5
稼働率(%)	92.3	87.1	88.4	91	93.5	91.6	86.5	91.6	86.5

1月	2月	3月
67.5	67	70
86.5	85.8	59.8

3 令和元年度 各部門実績報告

3-1 医務部門

【目標】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める
- II. 介護、医療連携の充実を図る
- III. 職員の健康増進
- IV. 地域に根ざした稲毛こひつじ園の構築

【施策・評価】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める。
 1. 午前・午後と各ユニットを巡視し、介護職員から情報伝達を受け、入居者様の異常の早期発見に努めた。また、入居者様へ積極的に声をかけ、状態の観察に努めた。
 2. 介護職員・相談員・栄養士・機能訓練士との連携を図り、入居者様が日々穏やかに過ごせるよう情報伝達・情報共有に努めた。
 3. 回診時、嘱託医へ情報を伝達。また、内服薬や状態の相談を実施し入居者様の健康管理に努めた。
 4. 内服薬の管理では、医務職員間でのダブルチェックを徹底。配薬忘れ・誤薬事故の防止に努めた。
- II. 介護、医療連携の充実を図る
 1. 介護職員との連携として、口頭での情報伝達のほか、連絡ファイルを活用し情報共有に努めた。
 2. 医療連携として、入居者様の受診先医療機関へ、受診依頼書や温度板を提出。情報伝達に努めた。また、早めの受診対応を心がけ重症化防止に努めた。
- III. 職員の健康増進
 1. 職員とコミュニケーションを図ることで、健康相談を受けることがあった。次年度でも職員とのコミュニケーションの充実を図り、体調不良の悪化を未然に防ぐよう努める。
- IV. 地域に根ざしたこひつじ園の構築
 1. 地域との関わりはイベントの機会のみであった。次年度ではイベントの機会だけでなく、地域カフェでも医務として関わることがないかを検討し地域に根ざした貢献ができるよう努める。
 2. 家族との関わりは、日頃からの挨拶や声をかけ、関係向上に努めた。次年度でも継続して実施し、更なる関係向上に努めていく。

医務 平成31年度 年間集計表

	内科	皮膚科	施設内 受診 合計	外部受診	受診 付き添い	オンコール	救急搬送	入院	カンファレンス	看取り
4月	135		135	71	0	2	0	4	0	1
5月	181		181	66	0	0	0	7	5	0
6月	140		140	56	0	0	0	6	2	0
7月	173	2	175	61	0	3	1	6	3	0
8月	140	2	142	72	0	2	0	7	2	0
9月	134		134	55	0	4	3	7	3	1
10月	182		182	62	0	5	3	5	1	1
11月	173		173	67	1	7	3	5	3	1
12月	120		120	49	1	3	2	2	3	1
1月	159		159	58	1	4	0	2	4	1
2月	150	3	153	46	0	13	2	5	2	1
3月	170	1	171	49	0	7	2	10	0	0
合計	1857	8	1865	712	3	50	16	66	28	7

死亡退去者

	死亡日	氏名	年齢	死因	死亡確認場所	31年度看取 累計	看取り総累計
1	平成31年4月26日	S	87	老衰	稲毛こひつじ園	1	50
2	平成31年4月29日	M	99	不明	稲毛病院		
3	令和元年6月26日	Y	97	老衰	稲毛病院		
4	令和元年7月10日	A	84	不明	南ヶ丘病院		
5	令和元年7月15日	T	88	誤嚥性肺炎	稲毛病院		
6	令和元年9月4日	S	76	脳出血	千葉中央メディカルセンター		
7	令和元年9月13日	K	92	肝臓がん	稲毛病院		
8	令和元年9月14日	H	83	老衰	稲毛こひつじ園	2	51
9	令和元年9月20日	I	79	不明	千葉医療センター		
10	令和元年10月4日	T	75	老衰	稲毛こひつじ園	3	52
11	令和元年11月6日	H	91	心不全	稲毛こひつじ園	4	53
12	令和元年11月9日	N	93	誤嚥性肺炎・心不全	千葉医療センター		
13	令和元年12月10日	K	97	不明	四街道徳洲会病院		
14	令和元年12月14日	K	92	老衰	稲毛こひつじ園	5	54
15	令和元年12月28日	O	89	脳梗塞	稲毛病院		
16	令和2年1月18日	O	92	老衰	稲毛こひつじ園	6	55
17	令和2年2月7日	S	92	老衰	稲毛こひつじ園	7	56
18	令和2年2月8日	K	94		稲毛こひつじ園		
19	令和2年3月14日	S	93	老衰	稲毛病院		
20							
21							

長期入院での退所者（施設復帰の不可のため退所）その他

	退所日	氏名	年齢	病名	状況
1	令和元年8月20日	K	82	食思低下・全身機能低下	退院困難にて退所となる。
2	令和元年9月7日	I	95	硬膜下血腫	退院困難にて退所となる。
3	令和元年9月20日	K	88	消化器がん	退院困難にて退所となる。
4	令和元年9月21日	O	83	誤嚥性肺炎	退院困難にて退所となる。
5	令和元年10月30日	N	90	誤嚥性肺炎	退院困難にて退所となる。
6	令和元年11月15日	I	90	認知機能低下	退院困難にて退所となる。
7	令和元年12月12日	T	86	肺炎・慢性腎不全	退院困難にて退所となる。
8	令和元年12月26日	I	79	全身機能低下	退院困難にて退所となる。
9	令和2年2月21日	U			退院困難にて退所となる。
10					

入院先病院	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稲毛病院	5	1	3	1	2	2	2	1		3	5	27
高洲訪問クリニック		1		1	1							4
四街道徳洲会病院	1	1		1	1	1	2					8
みつわ台総合病院					1	1		1		2	1	6
千葉メディカルセンター												0
井上記念病院									1		1	2
幸有会記念病院		1										1
千葉中央メディカルセンター	1	1	2	1								5
柏戸病院			1									2
千葉医療センター				1		1					1	3
千葉中央外科内科												0
南が丘病院		1										1
青葉病院				1								1
中村古峽記念病院					1							2
斎藤芳炎病院									1			1
東京ベイ浦安市川病院							1					1
新東京病院											1	1
千葉脳神経外科病院				1	1							2

3 - 2 生活相談員部門

【 目 標 】

- I. I. 特養稼働率95%以上の達成
- II. 地域との連携を深め、地域に根差した施設となれるよう努める

【 施策、評価 】

I. 目標稼働率の達成に向けた取り組み

- ・平成31年度の平均稼働率は89.5%となり、目標稼働率の達成は果たせなかった。
要因は数カ月に及ぶ1ユニット閉鎖が響いた結果となった。
ユニット再開とした後期は93.0%と安定した稼働率となり、特養空床発生時、ショートステイの有効活用を行うなど、連携が図れた。
- ・行事毎に写真を撮り随時ホームページを更新していくことで、新規入居者の獲得につなげた。
- ・必要時は入居者の居室変更をし、バランスの良いユニット編成をおこなった。

II. 地域との協力体制を構築し、地域のニーズをくみ取り施設運営に反映していく

- ① 地域カフェや買い物支援、こひつじ市場、フードバンクなど、地域住民に参加していただける企画を実施した。
- ② 必要に応じた各種福祉サービス、社会資源の把握・紹介を行った。
- ③ ボランティア希望者の受け入れを行った。
- ④ 稲毛ペコリーノとの連携を強め、法人事業の情報発信を行った。

3-3 介護支援専門員部門

1. 情報収集による生活課題の明確化

- (1) 各部署との良好な関係によって、より細かな情報を共有し把握するよう努めた。
また、利用者の状態に合わせたカンファレンスを適宜実施することで管理する事ができた。
- (2) 利用者に関する情報は、ワイズマンや相談員用ファイル等記録への記載を綿密に実施することとした。
- (3) 書類を取り交わし、個人情報の取扱い・管理に努め、家族からのご要望があった時は情報の開示も行うこととした。
- (4) 利用者が必要と思われる福祉用具の提案等を積極的に行うよう努めた。

2. 施設サービス計画書の作成、業務の適正な遂行

- (1) 更新期間を厳守し、各部署からの情報を融合し、利用者・家族に分かりやすい言葉・内容で作成する事に努めた。
- (2) 計画書作成後も、サービス内容の実施・達成状況を常に確認することとした。

3. 看取り対象者へのケアプラン作成とカンファレンスの実施

嘱託医の看取り診断を受け、看取りケアプランを作成しカンファレンスを実施した。看取りカンファレンスについては、7~10日又は必要に応じて開催し、最期に向けて御家族の意向を確認しつつ、各部署と情報を共有し連携を図る事ができた。

ケアプランの立案数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	19	12	12	16	20	14	19	19	15	16	15	20	197
看取り	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	0	8

3 - 4 栄養部門

I. 目標

- 1、日々の生活を豊かにする食事の提供
- 2、四季折々の食材を取り入れ、視覚からも楽しめる彩りあるメニュー内容の提供
- 3、ご利用者様・ご入居者様お一人お一人の身体状況に応じた食事内容と食事形態の提供
- 4、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わう楽しみを継続できる経口維持支援体制の整備と強化
- 5、地域カフェを通じた地域への貢献活動

II. 具体的対策

- 1、日々の生活を豊かにする食事の提供
 - 1) 各部署から意見が出せる機会の設定
⇒ 月1回、給食運営会議を開催した。業務の都合等で構成メンバーの全員参加が困難なため、議案・献立案を事前配布し、各部署やフロアで意見をまとめて会議に臨んだ。
ご利用者様・ご入居者様個々の状態に合わせた食事提供が出来るよう、各職種・委託会社それぞれの立場から問題提議・改善策を提起し検討した。
 - 2) 選択する楽しさを感じていただける機会の設定
⇒ 昼食時、デイサービス・ショートユニットを対象に『主菜セレクト』
(2種類の主菜からお好きな方を選択)を毎日実施した。
デイサービスにおいては、主食のセレクト(白飯・パン)も1ヶ月に3.4回程度継続している。
 - 3) ユニットやデイサービスの特色を活かしたレクリエーション実施のサポート
⇒ ユニット・デイサービスとの連携を図り、おやつ作りレクリエーションを実施した。今後も継続する。

- 4) 年1回以上、ご入居者様を対象とした嗜好調査の実施
⇒2月末に実施、3月集計、4月給食運営会議にて報告。(添付資料参照)
 - 5) おやつ内容の充実
⇒7月より給食委託業者に移行。ご利用者様・ご入居様のご要望に沿うよう検討している。
- 2、 四季折々の食材を取り入れ、視覚からも楽しめる彩りあるメニュー内容の提供
- 1) 月2回イベント食を設定し、旬の食材を使用したメニュー内容の提供
⇒昨年のイベント食を参考に人気のあったメニューを残しつつ、和・洋・中のバラエティーさを委託業者と模索した。
おやつについても季節感が感じられるよう、夏季は冷菓・冬季はあんまんなどを提供した。
 - 2) 視覚からも楽しむことが出来る食事の提供
⇒通常は『きざみ食』を召し上がっているご利用者様・ご入居者様にも、イベント食時は『通常の形』での提供を行い、目で見ると楽しむことや食欲増進につながる機会を設けた。
『ソフト食』を召し上がっていただいているご利用者様・ご入居様にも、可能な限り、「ネグトロ」ような咀嚼・嚥下が適した食材を提供した。
- 3、 ご利用者様・ご入居者様お一人お一人の身体状況に応じた食事内容と食事形態の提供
- 1) 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』に基づき、定期的に栄養基準・食種の見直しを図る。
⇒平成30年度に改正を行った後は、ご入居様の年齢構成の大きな変化がなかったため、継続した。
 - 2) 2020年度に改定となる『日本人の食事摂取基準(2020年版)』に向けた情報の把握に努め、速やかな対応と当園の栄養基準に反映できるよう準備を行う。
⇒委託業者と2020年度版が創刊されたのち開始する。
 - 3) 日々のミールラウンドにて、ご利用者様・ご入居者様の身体状況・食事摂取状況の把握に努め、状態変化へ早急な対応が出来る体制の整備・強化を行う。
⇒ミールラウンドを時間が許す限り行い、食事摂取量・摂取状況を確認し最適な食事内容・量を提案した。その結果、食事摂取量の増加・体重減少の回避が出来た事例もあった。

- 4) ご入居者様に対し、月1回以上の栄養に関する評価を行い、低栄養リスクに応じた期間でのモニタリングを実施する。
⇒低栄養状態の高リスクご利用者様は2週間おきに体重測定を実施。モニタリングを継続した。ユニット職員・他部署と共有し改善に努めた。
 - 5) ご入居者様の栄養状態・摂食嚥下状態の把握に努め、それぞれの状態に沿った栄養ケア計画書の作成・見直しと24時間シートへ反映する。
⇒各部署の意見を参考にお一人お一人丁寧に栄養ケア計画書を作成した。
24時間シートは廃止されたため、必要に応じて計画書のコピーをユニットに渡した。
 - 6) ミールラウンドやカンファレンス等において、他部署との情報共有を行うことで他職種連携を図り、低栄養状態になるリスクの高いご利用者様に対し、早期での対応策の検討・栄養介入を行い、状態の悪化防止・改善に繋がる栄養ケアマネジメントに努める。
⇒各部署との情報共有・ミールラウンド中の意見交換を活発に行った。
記録はワイズマンの経過記録に入力した。
 - 7) 褥瘡対策委員会にて、他部署との情報共有を行い、褥瘡の改善・予防に取り組んでいく。
⇒低栄養状態の高リスク抽出において、体重減少率を取り入れた。高リスク者一覧を作成し、体重減少率・食事摂取量・褥瘡の有無の項目の動向を表記した。
 - 8) 外部の研修会や講習会へ積極的に参加し、専門職としての質の向上と日々変わりゆく栄養に関する情報や知識の習得に努め、ご利用者様・ご入居者様の栄養ケアマネジメントへ反映させる。
⇒コロナウイルス感染防止のため中止となり、今年度は参加できなかった。
- 4、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わう楽しみを継続できる経口維持支援体制の整備と強化
- 1) ご入居者様を対象にスクリーニングを行い、摂食嚥下障害及び誤嚥のリスクが高いご利用者様を選定する。
⇒昨年度に経口維持支援を行っており、現在も必要であるご利用者様から選定した。
 - 2) 医師の指示のもと、経口維持支援の対象となったご利用者様を対象に介護職

員・生活相談員・機能訓練指導員・看護職員・管理栄養士等による多職種での食事観察・経口維持会議を開催し、経口維持計画書を作成する。また状態の変化に合わせ、適宜、計画書の見直しを行う。

⇒それぞれの専門的な知識や経験の意見をまとめ、食事摂取の維持・改善を支援した。

- 3) 対象のご入居者様に対し、月1回以上の食事観察・経口維持会議を行い、多職種にて食事に関する事項や口腔内の状態・ケア等についての確認と検討を行う。

⇒・食事観察・経口維持会議の開催時期は中旬頃までとし、開催日については、栄養士が各構成員の勤務体制を確認し打診後、決定する。

・食事観察・経口維持会議記録の作成・配信した。

・月1回開催される訪問歯科による口腔ケア研修へ参加し、口腔ケアに関する知識の習得に努めた。

5、地域カフェを通じた地域への貢献活動

月2回開催される地域カフェ内にて栄養や食事に関する情報提供を行い、地域の方々が栄養や食事に関する不安や疑問を相談できる機会を設けていく。

⇒季節感のあるバランスの摂れた食事の提供ができ、地域の交流や憩いの場となり、好評であった。

2019年度 栄養部門

1 介護老人福祉施設

(単位：食)

月	特養				ショート			
	朝	昼	おやつ	夕	朝	昼	おやつ	夕
4月	2215	2189	1956	2482	457	506	501	459
5月	2281	2256	2002	2279	507	543	541	507
6月	2175	2160	1969	2171	474	509	487	474
7月	2228	2216	1971	2229	480	507	507	479
8月	2323	2302	2117	2322	492	521	529	491
9月	2311	2296	2032	2314	468	508	478	469
10月	2456	2376	2246	2459	500	522	525	504
11月	2384	2300	2073	2384	503	526	510	509
12月	2420	2397	2143	2416	528	571	512	529
1月	2455	2430	2258	2456	528	538	544	523
2月	2245	2224	2041	2243	502	521	529	506
3月	2435	2429	2207	2443	488	521	495	484
総数	27928	27575	25015	28198	5927	6293	6158	5934
平均	2327	2298	2085	2350	494	524	513	495

2 通所介護

(単位：食)

月	昼	おやつ
4月	542	519
5月	527	516
6月	511	499
7月	498	461
8月	477	463
9月	457	437
10月	452	471
11月	442	361
12月	489	469
1月	470	449
2月	484	483
3月	465	276
総数	5814	5404
平均	485	450

3 職員

(単位：食)

月	朝	昼	夕
4月	30	167	30
5月	31	176	31
6月	30	154	30
7月	31	155	31
8月	31	94	31
9月	30	137	30
10月	31	196	31
11月	30	165	30
12月	31	53	31
1月	31	0	31
2月	28	0	28
3月	31	0	31
総数	365	1297	365
平均	30	108	30

4 低栄養リスク判定

(単位：名)

月	特養			総数
	低リスク	中リスク	高リスク	
4月	14	56	9	79
5月	15	57	9	81
6月	14	57	10	81
7月	18	56	8	82
8月	15	51	17	83
9月	22	53	9	84
10月	23	53	9	85
11月	23	52	9	84
12月	24	52	5	81
1月	29	48	8	85
2月	26	51	8	85
3月	28	52	8	88
総数	251	638	109	998
平均	21	53	9	83

5 経口維持加算

(単位：名)

月	特養	
	I	I・II
4月	0	0
5月	0	0
6月	0	0
7月	0	0
8月	0	0
9月	0	0
10月	0	4
11月	0	4
12月	0	4
1月	0	7
2月	0	7
3月	0	10
総数	0	36
平均	0	3

※入院中除く

イベント食報告（2019年度）

月	日	献立名	イベント食内容
4	3	イベント食	松花堂弁当（貝柱入生姜御飯・桜海老入クリームコロッケ・白玉ぜんざい）
	27	イベント食	パンメニュー
5	4	イベント食	端午の節句（竹の子御飯・天ぷら・抹茶パバロア）
	21	イベント食	混ぜ寿司・キスの変わり揚げ・みつ豆フルーツ
6	9	イベント食	入梅献立（ざる蕎麦・天麩羅・カブの柚子味噌あんかけ・紫陽花ゼリー）
	19	イベント食	山菜御飯・めだいの西京焼き・杏仁フルーツ
7	6	イベント食	七夕（稲荷寿司・ミニそうめん・天ぷら・みつ豆フルーツ）
	20	イベント食	土用の丑の日（米飯・鰻の蒲焼・すいか）
8	10	イベント食	冷やし中華・餃子・杏仁フルーツ
	24	イベント食	混ぜ寿司・天ぷら・茶碗蒸し
9	4	イベント食	あなごちらし・炊き合わせ・春菊のおかか和え・羊かん
	16	イベント食	敬老の日祝い膳（赤飯・姫鯛の粕漬焼き・煮物・巨峰と梨） ※施設より紅白かもめの玉子を提供
10	2	イベント食	栗コロッケ・茄子の味噌炒め・厚焼き玉子・みつ豆フルーツ
	26	イベント食	きこ炊込み御飯・赤魚の西京焼き・和梨ゼリー
	28	行事	秋刀魚の塩焼き ※正面玄関前にて炭火焼きを実施
11	9	イベント食	ねぎとろ丼・かき揚げ・茄子の煮物・フルーツ（柿）
	27	イベント食	ちらし寿司・天ぷら盛り合わせ・みかん
12	7	イベント食	ご飯・まぐろ山かけ・筑前煮・羊羹
	24	行事	ケーキバイキング
	25	イベント食	クリスマス（チキンライス・星型ハンバーグ・コロッケ・生ハムサラダ）
	28	行事	餅つき（白玉ぜんざい）
1	1	イベント食	祝い膳（鮭の刺身・鯛磯香フライ・きんとん・数の子・黒豆）
	11	行事	鏡開き（白玉ぜんざい）
	25	イベント食	ねぎとろ丼・筑前煮・小松菜の胡麻和え・羊羹
2	3	イベント食	節分（恵方巻・玉子巻寿司・いわし梅しそ大葉フライ・菜の花の和え物）
	22	イベント食	サーモンいくら丼・天ぷら盛り合わせ・小松菜の胡桃和え
3	3	イベント食	ひな祭り（ちらし寿司・ささみフライ・茶碗蒸し）
	20	イベント食	天ぷら盛合わせ・茄子の煮びたし・ほうれん草錦糸和え・フルーツ

※イベント食は、昼食に実施

備蓄品リスト

※主食100食×3日分 主菜等400食×3日分 水100食×1日分

	品名	単位	期限	
①	炊き出し白米セット	5ケース（50食分）	2022/08/31	
		3ケース（50食分）	2022/09/30	
	白 粥	3ケース（50食分）	2021/04/30	
		3ケース（50食分）	2022/04/30	
		1ケース（50食分）	2022/12/31	
		3ケース（1食×50袋）	2022/08/31	
②	●ミニふりかけ（しそ）	40個×3袋	2020/11/18	
	●ミニふりかけ（のりたま）	50個×2袋	2020/11/26	
	●ミニふりかけ（カツオ）	40個×3袋	2020/12/01	
	●ライトツナフレーク	1kg×4P	2021/06/29	
	●かつおフレーク味付	450g×5P	2021/04/23	
	●チキンそぼろ味付	900g×5P	2021/07/11	
	●いわし蒲焼き	固形1400g×4缶	2022/07/30	
	●さば味噌煮	固形1400g×2缶	2022/08/16	
	●みかん缶	1号缶×3缶	2021/12/01	
	●洋ナシ缶	1号缶×2缶	2021/12/17	
	●フルーツカクテル缶	1号缶×3缶	2022/02/20	
	●焼きとり（たれ）	65g×24缶 5箱	2022/07/16	
	●焼きとり（塩）	65g×24缶 5箱	2022/06/12	
	●野菜1日これ一本	190ml×30本×7箱	2022/07/30	
	●野菜生活100オリジナル	190ml×30本×4箱	2021/09/04	
		濃厚流動食（400Kcal）	3個	随時入れ替え
		濃厚流動食（300Kcal）	6個	〃
	※経管栄養対象1名のみ（1日400kcalを1個、300kcalを2個使用。非常食として3日間分を常に確保）			

●⇒日清医療食品用意分

保管場所 ⇒ ①防災倉庫 ②食品庫内・非常食専用ラック（栄養室）

令和2年4月14日 時点

3-5 短期入所生活部門

【 目 標 】

- I. 「自らが利用したい。家族を利用させたい。」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。
- II. 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。
- III. 常に利用ニーズを調査し、必要ニーズに対応した支援を行う。

【 施策・評価 】

- I. 個々の状況に応じたより質の良いサービスの提供として外出や食事など季節に合った行事・レクの提供をその時の状況に応じて工夫して行うことができた。
個別機能訓練に関しては機能訓練士の不在時期などもあり中々実施することが難しかったが機能訓練士が在中するようになってからは個別機能訓練を希望するご利用者様も少しずつ増えてきており実施に繋がってきている。
担当ケアマネージャーとの連携を強化し信頼関係の構築は出来る限りの柔軟な対応や密な情報の共有を図ることで今迄関わりのなかった事業所とも関係ができ、その限りではなくその後も継続して新規利用者の獲得に繋がる事業所が増えており信頼関係が出来てきている。ご家族ともコミュニケーションを図る事に努め信頼関係が出来てきている。その為、担当ケアマネージャーやご家族からは「他の施設とは柔軟な対応をして貰えるので利用したい」との声も聞かれるようになってきている。今後も『選ばれる施設』を目指して活動していく。
- II. 前年度に比べ施設内・他部署との情報の共有化を図り、特養との連携により空室利用や緊急ショートを受け入れも含め柔軟な受け入れ対応ができるようになってきている。
施設外でも他事業所や医療機関などの関係機関との連携を密に情報収集を行い、情報の共有化を図ることが出来るよう努めている為、確実に利用者数が増え連携した支援が出来るようになってきている。次年度も更に連携した支援によりご利用者様が安心して生活が送れるよう努めていく。
- III. 必要ニーズの対応という部分では、各事業所への営業の際等に現在の利用ニーズの動向

を確認するように努めた。その動向に応じてできるだけ限りの柔軟な対応と更に長期入所との連携を強化したこともあり空室利用を活用することが出来たことで新規利用者が確実に増え稼働率が上がってきている。目標に掲げていた 100%は達成できなかったが次年度は目標達成を目指していく。

新規利用開拓の為の営業に関しては定期的な営業活動を行うと同時にホームページへの空室情報の掲載により新規問い合わせがかなり増えてきており利用に繋がっている。今後も空室状況により都度情報発信を行っていく。

困難ケースへの対応の部分に関しては実際に保証人がいないケースの相談などが増えてきているが、そのような困難ケースに関して受け入れが出来ていないのが現状である。年々、同様の相談が増えてきていることもあり今後どう対応していくのかを検討する必要がある。

利用者の多様性や個々の問題についての把握に努めており、利用者・家族との信頼関係が構築されてきている。引き続き密にコミュニケーションがとれるよう話しやすい環境づくりに努めていく。

<送迎エリア>

稲毛区 中央区 若葉区 花見川区 美浜区 緑区 の千葉市全域
四街道市 佐倉市

<送迎実施地域>

区	町
稲毛区	長沼町 小仲台 園生町 天台 穴川 小中台 作草部 萩台町 柏台 轟町 黒砂 弥生町 稲毛町 千草台 宮野木町 稲毛東 黒砂台 稲毛台 あやめ台
若葉区	若松町 若松台 都賀の台 小倉台 源町 大宮町 東寺山町 殿台町 都賀 高品 原町 みつわ台
中央区	新宿 椿森 東千葉 登戸 弁天
花見川区	宮野木台 柏井 南花園
美浜区	真砂 幸町
緑区	
その他	四街道市 (大日 四街道) 佐倉市 (上志津)

<要介護度別利用状況>

()内は令和 1年度

	男	女	計
要支援1			
要支援2			
要介護度1	0 (1)	8 (6)	8 (7)
要介護度2	3 (2)	6 (10)	9 (12)
要介護度3	7 (2)	8 (7)	15 (9)
要介護度4	4 (2)	4 (4)	8 (6)
要介護度5	1 (1)	2 (4)	3 (5)
計	15 (8)	28 (31)	43 (39)

<新規契約数>

()内は令和 1年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	0 (0)	0 (2)	2 (3)	2 (3)	4 (1)	3 (1)
女	3 (4)	1 (2)	2 (0)	3 (6)	9 (3)	5 (4)
計	3 (4)	1 (4)	4 (3)	5 (9)	13 (4)	8 (5)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	5 (3)	8 (3)	1 (3)	3 (1)	1 (1)	1 (2)
女	4 (5)	3 (5)	3 (0)	2 (1)	2 (3)	0 (3)
計	9 (8)	11 (8)	4 (3)	5 (2)	3 (4)	1 (5)

<行事>

- 4月 外出（いちご狩り）
- 5月 散歩（外気浴）
- 6月 縁日・おやつ作り（たこ焼き）
- 7月 スイカ割り
- 8月 昼食作り（お好み焼き）・花火大会
- 9月 敬老会・おやつ作り（ホットケーキ）
- 10月 おやつ作り（たこ焼き）
- 11月 秋祭り
- 12月 おやつ作り（鈴カステラ・五平餅）
クリスマスケーキバイキング、餅つき
- 1月 初詣（千葉神社）、新年会
- 2月 節分、昼食作り（お鍋）
- 3月 おやつ作り（大判焼き）

3-6 介護予防通所介護・通所介護部門

【 目 標 】

1. ご利用者の思いを尊重した、個別化したケアの提供
2. 職員の資質向上（人を活かして育てる）
3. 近隣地域と連携し共に、築くデイサービス

【 事業概要 】

営 業 日 … 月曜日～土曜日（祭日含む） 1月1日～3日は休業
サービス提供時間 … 9：30～16：30
利 用 定 員 … 30名

【サービス内容】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談
健康チェック・その他、必要な介護・個別機能訓練

【ご利用者の状況】（3/31 現在）

(1)年齢構成

年 齢	男	女	計
50～59	1	0	1
60～69	1	0	1
70～79	2	5	7
80～89	7	24	31
90～	2	11	13
合 計			
最高年齢	91	96	
最低年齢	57	73	
平均年齢	81.5	86.0	84.9

(2)介護度内訳 (3/31 現在) … 平均介護度 : 2.1

介護区分	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5
人 数	1	2	12	8	15	7	1

(3)新規利用受入れ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人 数	3	3	0	0	1	2	2	3	5	3	1	1	24

(4)終了理由

理 由	入 所	転 居	入 院	死 亡	療 養	他 DS	自己都合	合計
人 数	9	1	3	0	4	7	3	27

(5)月間利用状況 延べ人数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	27	25	27	27	25	26	26	26	24	25	26	312	26
平均利用人数	20.7	20.3	20.5	18.4	17.7	18.4	18.1	17.8	18.8	19.6	19.3	17.9	227.5	18.6
月合計	539	548	512	498	477	460	471	465	489	470	482	466	5877	490
稼働率	69.1	67.7	68.3	61.5	58.9	61.3	60.4	59.6	62.3	65.3	64.3	59.7	758.4	63.2

【ボランティアの受入れ状況】

(1)新規受入れ状況

開始月	団体名 : 内 容
7月	千草台ハーモニカクラブ

(2)定期受入れ状況

受入日	団体名：内 容
第1金曜	ゆる体操
第4金曜日	音楽ボランティア
第3金曜日	ゴムバンド体操
第3水曜日	ハーモニカ演奏
毎週火曜日	太極拳(8月～中止)
25日以降相談	さくら会
奇数月第1水曜日	萩の会
不定期	書道の日・オカリナ演奏・フラダンス・落語の会

【年間行事】

	内 容
4月	おやつ作り(桜餅どら焼き)
5月	外出(とんでん)・外出(千葉市動物公園)・こいのぼり作り
6月	縁日・おやつ作り(白玉あんみつ)・千草台ハーモニカ演奏・フラダンス披露会
7月	七夕(短冊・飾り作り)・おやつ作り(いも餅)・第19回落語の会・すいか割り
8月	おやつ作り(パフェ)・すいか割り
9月	敬老会・オカリナ演奏会
10月	運動会・ハロウィン仮装パーティー
11月	おやつ作り(焼き芋・芋どら焼き)・秋祭り(施設合同)
12月	ツリー作り・クリスマス会・餅つき(施設協同)・紅白歌合戦・
1月	新年会(施設協同)・第20回落語の会・おやつ作り(お麩のフレンチトースト) 千支の絵馬作り
2月	節分会・おやつ作り(焼クレープ作り・雛カード作り・訪問パン販売) こひつじ市場(施設協同)
3月	おやつ作り(お好みボール・餃子の皮ピザ・和風パフェ・ホットケーキ) 国際交流(アフガニスタンの生活講座)
定期	毎月:カレンダー作り・身体・握力測定 食 事:主菜セレクト(毎日)・行事料理 おやつ:ドリンクセレクト

【研 修】

	内 容
4月	
5月	接遇研修
6月	事故予防・安全対策・虐待防止、身体拘束
7月	感染症対策・食中毒予防・褥瘡予防・対策
8月	介護現場の腰痛予防対策・看取り
9月	自己理解と他者理解
10月	理念と介護支援・記録の重要性
11月	高齢者虐待防止に関する研修・感染対策（ノロ・インフルエンザ）
12月	緊急時対応・事故発生時の対応・記録（ヒヤリハット・事故報告）
1月	看取り・地域包括ケアシステムの理解
2月	認知症研修
3月	褥瘡予防・対策

※教育研修室主催

【総 括】

平成 31 年度の実績は、1 日平均 18.6 名、平均稼働率は、63.2%であった。

第 1 の目標であった、ご利用者の思いを尊重した個別ケアを行うために、ご利用者が好まれる様なレクリエーションを数多く提供し、その中でも好評だった食事・買い物する行事を企画してきました。12 月からは、厚生労働省が定める「総合的な生活機能向上」の柱となる 3 つの機能（運動・口腔・認知）を維持・向上できる様に、生活総合機能改善機器「DKエルダーシステム」^{※1}という専用機器を導入し、それら機能を改善できる様な取り組みを開始しました。

来年度は、上記専用機器の活用と新たな機能訓練加算を算定することで、リハビリ体制を強化し住み慣れた在宅での生活を長く継続できるように支援していきます。また、地域連携重視の介護施設として機能できるように、併設事業所と協同で地域自治会やボランティアの方々と近隣の医療、介護施設とも気軽に交流できる、社会福祉の拠点づくりを目指していきます。

^{※1} DK エルダーシステムとは、通信カラオケ機器「DAM」を活用した、介護予防・健康増進コンテンツ配信システムです。音楽・体操・映像などのオリジナルプログラムを通じて音楽の効用を最大限に活用し健康維持とリハビリ効果を促進させ、高齢者の心身の活性や身体機能の維持、回復を目的に導入した機器です。

3-7 居宅介護支援部門

1. 居宅介護支援事業

(1) 新規受け入れ

- ・千葉市あんしんケアセンター、病院及びご家族から直接の依頼あり。
- ・定期的にあんしんケアセンターへの訪問を実施。
- ・入院された利用者様の病院へ地域連携シート持参し、地域連携室 MSW とコミュニケーションをとるよう心掛けている。

※2名体制時で報告

目標実績件数 68件/月 ⇒ 69.5件/月

年度未延べ件数 816件 ⇒ 834件 稼働率 87.1% ⇒ 89.1%

R2年3月現在 契約78件(要介護68件・要支援10件) ※R2年2月より3名体制

管理者：要介護34件・要支援6件/専任：要介護32件・要支援4件/専任：要介護2

R2年3月 「実績」 要介護65件 要支援10件 稼働率59.8% (R2年2月より3名体制)

(管理者：要介護32件・要支援6件/専任：要介護32件・要支援4件/専任：要介護2)

- ・契約しているが、入院やサービス利用休止される方がおり、実績に反映できていない。
- ・体調の変化により区分変更される利用者様がいる為その都度対応している。
- ・実績にならないが、利用者様やご家族等の相談や対応を行っている。

(2) 法令遵守し、安定した運営をすることを心掛けているが、業務点検や自主点検を定期的に行うことができていない。介護支援専門員3名で声を掛け合いながら確認していくよう注意していく。

2. 要介護認定調査委託事業

(1) 日程調整を行い千葉市の現任研修に参加している。今後も機会があれば参加していく。

(2) 千葉市各区、その他の自治体からの委託依頼を積極的に受けている。

同じ法人内特別養護老人ホームの認定調査を積極的に受けた。

R2年3月現在27件「千葉市中央区4件・稲毛区13件・花見川区2件・若葉区3件//四街道市1件/泉大津市1件/静岡市1件/東京都荒川区2件」(月に1~3件依頼受けている)

3. 事務処理を円滑に行うため業務の分散化を図る。効率よく業務を遂行できるよう努める。

契約書等の書類製本は介護支援専門員で時間がある時に行っている。

ファイルや書類の整理できていない。入力業務の為に残業すること多い。

事務処理や業務が円滑に行うために見直し等相談していく。

4. 質の高いケアマネジメントの推進

介護保険改正にあたり、質の高いケアマネジメントを推進するために主任ケアマネジャーを管理者に登用することを促進されているが、現在 主任ケアマネジャーはいない。今後、主任ケアマネジャー資格を取る予定の職員がいる。資格を取りやすくなるための環境を作っていく必要あり。

5. 職員の資質向上のための研修（関係機関との連携・地域とのつながり）

自身の日程調整を行い、できる限り研修や集まりに参加し、医療機関・あんしんケアセンター・サービス事業所・地域との連携を作り、深めていく努力をしていきます。

	研修内容
4月	稲毛研究会の勉強会/第1回稲毛区ケアマネ研修会/認知症 SOS 対応声掛け訓練 (都賀公民館)
5月	第1回稲毛区ケアマネ勉強会
6月	いなげ医療連携の会勉強会/千葉市認知症に係る施策説明会/第1回稲毛区事例 検討会
7月	第1回稲毛区内地区ケア研修会
8月	第2回稲毛区ケアマネ研修会
9月	第2回稲毛区ケアマネ勉強会
10月	天台・園生圏域内居宅事業所連絡会
11月	介護認定調査員現認研修/第3回稲毛区ケアマネ研修会
12月	第2回稲毛区事例検討会
1月	第3回稲毛区ケアマネ研修会
2月	天台・園生圏域内居宅事業所連絡会
3月	

※2月の後半より新型コロナウイルス感染予防の為勉強会の開催なくなっている。

3-8 ボランティア部門

【 目 標 】

施設サービス課ボランティア部門は基本方針・目標を基本に社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

- I. 各種演芸ボランティアを受け入れ、入居者の生活に刺激と楽しみを感じていただく。
- II. 個人やグループのボランティアを受け入れ、地域住民との交流を促進する。

【 施策・評価 】

- I. 入居者が楽しみを感じて頂けるよう、演芸ボランティアの受け入れ、新規開拓を行う
 - ①少人数による有志の会（俳句、絵手紙）の実施は継続できており、入居者も楽しみにしていた。しかしながら、参加人数は減少傾向となった。
 - ②大人数を対象とした手品、ウクレレ、カラオケ、ピアノ伴奏などの一芸を披露していただける団体や個人を募集し、鑑賞会を開催する。
不定期ではあるが、落語の会や音楽ボランティア等の招致ができていた。
 - ③各種行事の際に、演芸ボランティアについては萩台の自治会との協力もあり、太鼓や日本舞踊のボランティア招致をおこなった。
- II. ボランティア希望者と施設とを繋ぐパイプ役として、ボランティアが活動しやすい環境を整える。
 - ①話し相手、居室の清掃、リネン交換、将棋・囲碁の対局などを引き受けていただける方を随時募り、入居者の充実した生活に繋がることできた。
 - ②ボランティア希望者に対して、活動前に来園を依頼しお互いに理解できるまで何度もヒアリングをおこなった。受け入れの手順や法人の取り組みなども説明し、理解を得て活動することができた。

【 日程 】

日本舞踊（萩の会）	奇数月第1水曜日	日本舞踊の披露
傾聴フレンズ	第2火曜日、第3月曜日	話し相手
ハーモニカ	第3水曜日	ハーモニカ演奏し歌う
俳句の会、絵手紙	第4木曜日	俳句、絵手紙の作製
音楽ボランティア（コスモス）	第4金曜日	ピアノ伴奏し歌う
落語の会	不定期	寄席
麻雀	不定期	麻雀相手

3-9 機能訓練部門

【 目 標 】

1. 入居者様へのより適切なサービス提供の実施
2. 多職種連携の強化
3. 地域へ貢献できる活動

【 施策・評価 】

1. 個別機能訓練計画の作成及び実施することにより入居者様へのより適切なサービス提供を行う。

職員体制(特養常勤:原澤・兼任常勤:黒沢・特養非常勤:地葉)が変更となったことで、特養施設内 90 名の内、現在 81 名の機能訓練を実施可能となり、前年度に比べ、20 名(前年度 61 名)実施人数を増やすことができた。また、個別機能訓練だけではなく、褥瘡対策に関するケア計画書・経口維持会議への参加・集団体操の実施等で関わる事で個々の入居者の状態やニーズを把握し、訓練内容の変更などにつなげる事ができた。今後も訓練や評価を通じ、入居様のニーズや問題点に沿った適切なサービス提供を行っていく。

短期入所の個別機能訓練に関しては、担当療法士の出勤日が不定期ということもあり利用者様の要望に沿う形での介入が不十分な事もあった。しかし 11 月からは新任職員の配置も行ったこともあり実施人数が 8 人(前年度 4 人)と実施者を増やすことができた。

デイサービスでの機能訓練は今年度、職員体制(常勤:柴田)も変更となり、[個別機能訓練加算Ⅰ]の算定を再度行うことができた。開始当初は 41 人であったが、3 月末の時点では 50 人へと実施人数を増やすことができた。今後に関しても、感染症対応が終息次第[個別機能訓練加算Ⅱ]を算定予定であるため、より適切なサービス提供が行えるように計画書の作成や訓練内容の策定等の準備を進めていく。

R2 年 3/31 時点：	特養個別機能訓練計画書作成者	81 名
	SS 個別機能訓練実施者	3 名
	デイサービス個別機能訓練実施者	50 名

2. 多職種連携の強化

関連委員会や会議・カンファレンス・施設内研修の担当等に参加した。また、介助動作指導やポジショニング、シーティングなども昨年度同様にユニットから依頼時に随時実施していった。今後も引き続き実施することでユニットや多職種との連携を図っていく。

3. 地域へ貢献できる活動

月2回の地域カフェでの体操指導は継続していく。今年度からは身体の体操だけではなく脳トレや口腔・発声機能の運動も取り入れたことで、全身の機能の向上を目指している。今後も、地域の方々との交流を図っていきたい。

【 総 括 】

令和元年は人員構成に大きな変更があった。5月に常勤の言語聴覚士が入職した後、7月に柔道整復師、11月に全事業所兼任担当の鍼灸師が入職し人員体制を整えることができた。それにより、特養の個別機能訓練実施者の増加・デイサービスの更なる加算の算定等、加算算定やサービス提供をより行える環境となった。今後も、質を落とさず更なるサービス提供を行えるように機能訓練職員同士で情報共有等も行っていきたい。

3-10 事務部門

【 目 標 】

事務部門は法人の基本方針・目標・中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

平成 31 年度目標

1. ガバナンス（内部管理体制）の確立
2. 人材確保の強化
3. 職員のスキルアップ支援
4. 施設経費削減

【 施策・評価 】

平成 31 年度施策と実績

1. ガバナンスの確立

- 1) 自主的な経営基盤の強化
情報の共有化はまだ完璧ではないが、適正かつ公正な支出監理を確保し、財務会計に係るチェック体制を整備した。
- 2) 事業経営の透明性の確保
資金、ガバナンスに関して、職員、第三者への周知を徹底した
- 3) 的確な経営状況の把握
顧問税理士に任せきりにせず、資産・月次を把握するよう努めた
- 4) 積極的な情報開示
HP にて財政のみならず、行事等についても開示した
- 5) 技能の適切な評価
より明確な人事考課制度の導入と実施
- 6) 提供する福祉サービスの質の向上
教育研修室主導の職員研修の徹底化を行う。
- 7) 地域社会への積極的貢献
移動スーパー、フードバンクの実施

2. 人材確保の強化

- 1) 同一労働同一賃金を採用し、賞与等で適切な評価を行った。
- 2) 有給取得義務化に対して積極的な声掛けを行い、取得率は 61.8%であったので来期は 7割以上を達成したい
- 3) 職員募集チラシを作成し近隣にポスティングを行う。結果、ネットや新聞折り込み媒体よりも顕著な効果を出すことができた。

4) 新卒獲得のための学校訪問に関しては実行することができなかった

3. 職員のスキルアップ支援

- 1) 奨学金貸付制度を利用しては初任者研修1名であったが、来期は実務者研修を受講予定者が複数名いるので介護福祉士取得へ期待をしている
- 2) 非常勤介護職員へ介護福祉士手当を支給。勤労意欲増加に一定の効果があった。

4. 施設経費削減

光熱費は東京電力から他社に切り替えることで削減することができた。

事務費に関しては印刷代が増加したが来期以降、コピー機のリースアップに順じて内容を精査し、ランニングコストを下げることを課題と考える。

職員の残業時間は1人平均すると8時間であるが、月の残業代が100万円をこえているので個々の努力が求められる。

【 業務スケジュール 】		
月	総務・人事	経理・他
4月		月次決算 第1回理事会 第2回理事会
5月		第3回理事会
6月	昇給	第4回理事会、第1回評議員会
7月	夏季賞与・処遇改善加算金支給 社会保険標準報酬月額基礎届 職員健康診断	労働保険料第一期納付 第5回理事会
8月		
9月		
10月	非常勤職員契約更新	労働保険料第二期納付 第2回評議員会
11月	賞与人事考課（処遇改善加算金支給）	上期期決算報告
12月	冬季賞与	第6回理事会
1月	支払調書、法定調書提出	労働保険料第三期納付
2月		事業計画作成 第7回理事会
3月	処遇改善加算金支給・昇給人事考課 非常勤職員面昇給人事考課談 特定従事者健康診断	第3回評議員会

3-1-1 研修部門

■事業方策に対する展開

- (1) 部内専従職員配置(介護福祉士 2 名配置 1 月から 3 名)
(注) 公益事業稲毛ペコリーノにおける講師 3 名兼任にて展開
- (2) OJT において新入職員導入研修実施後、配属ユニットリーダーと連携のもと
状況確認、定期面談実施、フォローアップ・方向性・資質向上に向けた外部研修
への推薦受講実施
- (3) キャリアシートの作成と共に上位職に提起し、キャリアパス制度の確立

■内容・案件に対する展開

- (1) 外部講師を招聘し、「園としての、研修制度への取り組み」を実施展開
- (2) 敬愛大学生涯学習セミナーを通しての、外部団体との交流・意見
- (3) 外部からの施設見学を通しての、就業支援活動

■教育研修室業務実績

- 年間を通じて、新入職スタッフ、新人導入研修実施
- | | |
|------------|---|
| 令和元年 5 月 | 介護スタッフ面談フォローアップ・研修対策 |
| 令和元年 6 月 | 職場体験担当 千草台中学校 2 名・
外部ガイダンス「ジョブシティカレッジ」参加 8 名 |
| 令和元年 7 月 | 職員キャリアシート作成 |
| 令和元年 8 月 | 職員キャリアシート配布・キャリアパス各部署配布設置 |
| 令和元年 9 月 | 各種マニュアル改訂部分確認作業・新入職職員同行指導 |
| 令和元年 10 月 | 介護スタッフ面談フォローアップ・研修対策 |
| 令和元年 11 月 | 施設内研修対応・ペコリーノ講座対応 |
| 令和元年 12 月 | 施設内研修対応・
敬愛大学生涯学習セミナー「本当に怖い感染症・予防方法」 |
| 令和 2 年 1 月 | 施設内研修対応・ペコリーノ講座対応(介護福祉士対策) |
| 令和 2 年 2 月 | 外部業者施設見学会対応・
オムツ業者変更に伴う研修フォローアップ |
| 令和 2 年 3 月 | コロナ感染対策ユニットフォローアップ |

外部研修

月	研修名	研修内容
4 月	高齢者の食事・薬との飲み合わせ食べ合わせ	・高齢者の食事について
5 月	抱え上げないケアと福祉用具 接遇研修	・ボディメカニクスの活用 ・マナーと接遇
6 月	高次脳機能障害 ポジショニング 排泄ケアセミナー	・高次脳機能障害の特徴 ・移乗、移動ケアを学ぶ ・快適な排泄ケア
7 月	介護技術研修 災害時の緊急対応訓練	・基本技術学習 ・避難訓練に向けて
8 月	介護支援専門員更新研修 施設における感染症対策研修	・地域包括ケアシステム展開 ・感染のリストと対応
9 月	拘縮予防ケア ストレスマネジメント研修	・拘縮にならないために ・現代社会のストレスとは
10 月	アセスメント基礎力 外国人介護職員受け入れ施設のためのメンタルヘルスセミナー	・初期段階での関わり方 ・外国人を受け入れるための関わり方と対策
11 月	キャリアパス研修 チームリーダー編 ファシリテーション研修 排泄障害ケア研修	・チームリーダーとしての役割 ・会議の効率化や生産性向上 ・排泄障害ケアの特徴
12 月	大人の発達障害理解、対応 職員定着応援研修 福祉サービス苦情解決研修(基礎) 身体拘束専門実務研修 排泄ケア障害:排便編	・発達障害についての理解 ・定着する施設とは ・苦情解決に向けて ・身体拘束しない介護 ・排便コントロール
1 月	法的根拠に基づいたケアマネジメント 介護アンバサダー育成研修会 高齢者虐待防止研修 食と口腔健康・口腔ケアと歯科との連携	・介護の在り方、ケアマネジメントの仕方 ・施設管理者の役割 ・虐待防止について ・口腔ケアの重要性
2 月	コロナ感染予防の為、外部研修自粛	
3 月	自粛	

・EPA 外部研修

年 月 日	研修名	開催場所
平成 31 年 6 月	第 1 回集合研修	国際ファッションセンター
平成 31 年 9 月	第 2 回集合研修	国際ファッションセンター
平成 31 年 12 月	第 3 回集合研修	国際ファッションセンター
平成 31 年 4 月～令和 2 年 1 月	日本語学習 介護福祉士試験対策 研修	稲毛ペコリーノ
令和元年 12 月～2 年 1 月	介護福祉士対策講座	稲毛ペコリーノ

3 - 1 2 営繕部門

I. 活 動

1. 事業計画通りの保守、修繕実行
2. 設備・備品の中古市場活用による経費削減
3. 大規模修繕についての検討
4. 既存事業者の再選別による経費節減

II. 施策・評価

1. 携帯電話台数の見直しは、計画に対して遅れたが業者を変更して台数を絞り込み基本料など下げる事が出来た。
台風被害、職員駐車場整備など予定外の費用が発生し、見送った修繕があった。
2. 中古市場は車椅子 1 台を購入できた。
3. 大規模修繕については検討できなかった。
4. セコムによる設備点検は、他業者との相見積もりをとり点検内容変更などにより減額する事が出来た。

4 各委員会実績報告

4-1 安全対策委員会

【目 標】

利用者の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様、研修を通じ習得を図る。

介護事故の原因究明・防止策立案が重要であり、施設全体の組織的な対策推進こそが事故を防止し安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

【具体的な活動報告】

1. ヒヤリハットと事故の把握

ヒヤリハットと事故報告書の作成を手書きからワイズマンへと変更し、速やかに集計を行うことが出来た。またワイズマンを利用したことにより、他ユニットの報告書も速やかに閲覧することが出来るようになった。しかし、ヒヤリハットの件数が減少してしまい、ヒヤリハットの重要性の意識向上が次年度の課題として残った。

2. 研修会の開催

6月 事例検討（リスクマネジメントの視点）

12月 日中・夜間緊急フローチャートの把握

事故発生時の対応・記録（ヒヤリハット・事故報告）

3. 分析、防止策の実施できる組織体制の整備

重大事故が発生した時は、職員や他職種からの聞き取り・相談を行った。

【今後の活動について】

ヒヤリハットと事故の報告は委員会で行っていたが、全職員への周知・対策の意識づけが十分ではなかった。ヒヤリハットの重要性の確認と、事故防止について委員会として周知をしっかりと行っていく。

専門職との事故予防の検討を行い、内容について周知する。

マニュアル（救急搬送・虐待疑いや重大事故発生時の委員会の招集について・事故や外傷の写真の範囲・身体拘束該当項目一覧）や帳票の提案・作成・見直しを行っていく。

4 - 2 衛生委員会

【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となっていく必要があるため、衛生委員会において労働者の危険または健康障害を防止するための基本となるべく対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査・審議を実施したのち、必要に応じて職場改善を遂行する。衛生管理者の選任を早急に行う。

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関する対策
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項
- V. 入居者の健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、ストレスチェック（年1回）
職場巡視・巡視チェックリストの提出（月1回）、専門医との面談

【施策・評価】

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策
 1. ストレスチェックの実施。今年度は11月に実施となった。実施後、産業医への健康相談はなかった。次年度でも、ストレスチェックの重要性を職員へ伝達。積極的に参加するよう働きかけ、心身共に障害なく健康に勤務できる環境作りを実施していく。
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策
 1. 健康診断の実施。今年度は8月に全職員対象、3月に夜勤従事者対象の健康診断を実施。健康診断実施後、産業医への健康相談はなかった。委員会から職員へ産業医への健康相談ができることを伝達。労働者の健康の保持増進を図っていく。
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に関する対策
 1. 巡視チェックリストの提出・検討について、今年度は提出が比較的揃うことが多かった。次年度でも巡視チェックの重要性の周知徹底に努め、チーム一丸となって良い職場環境を作っていく。
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項
 1. 腰痛予防・腰痛緩和について今年度取り組む予定であったが実施することができなかった。次年度は優先事案として取り組んでいく。
- V. 入居者健康診断⇒3月実施 全職員健康診断⇒8月実施 夜勤従事者健康診断⇒3月実施 ストレスチェック⇒11月実施 職場巡視・チェックリスト提出⇒毎月実施

4－3 褥瘡対策委員会

【目標】

適切なケアにより褥瘡が発生しないもしくは発生率が低い状態としQOL向上に努めることにより、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

【施策・実施状況】

- 1、毎月1回委員会を開催し各部署からの現状報告、意見交換、問題改善に取り組んだ。
- 2、多職種連携により、褥瘡の早期発見に努めていても発生した場合はすみやかな早期改善を目指すための情報共有を行った。
- 3、褥瘡予防を目指した食事・排泄のケア、体位変換技術等を習得するために施設内研修を行った。
7月に2回開催。テーマ「褥瘡予防対策と安楽体位」
日常生活での褥瘡好発部位、早期発見方法、褥瘡予防方法、PTによるポジショニングの演習を行った。
- 4、介護保険改正に伴い、入所時及び1回/3か月ごと入居者別にモニタリング指標を用いた評価を行い、ケア計画書の作成と見直しを行う呼びかけと実施確認を行った。(4・7・10・1月実施)
- 5、年間褥瘡処置発生件数
 - 1) 褥瘡発生部位
仙骨部 2件
踝 1件
踵 5件
 - 2) 皮膚トラブルを繰り返す部位
臀部、臀裂部 5件
 - 3) 対応策
 - ①毎日の医務処置と観察
 - ②原因の追求と対応策の提案
 - ③おむつ内環境を整える等の清潔保持。

- ④皮膚の蒸れを軽減し皮膚トラブルの予防をするため、ラバーシートをはずすことを推奨。
- ⑤適宜、褥瘡予防用具の使用を推奨。
マキシフロートマット、スライディンググローブの使用。
- ⑥理学療法士より除圧、摩擦の予防、具体的な体位交換、ポジショニング法の指導を受ける。
- ⑦栄養面のサポート
毎月の体重測定から BMI を算出し低栄養状態の入居者様をピックアップし、ハイリスク予備軍の確認を実施。また低栄養状態の入居者様の体重測定を月 2 回で実施し栄養補助食品の提案、検討を行う。

以上①～⑦の対応策により褥瘡予防、皮膚状態の増悪防止ができた。一方で同じ部位に皮膚トラブルが再発するケースもあった。

【考察】

表皮剥離や褥瘡等の皮膚トラブルが発生した時、関連部署との連携により情報共有、早期発見によりすみやかに早期対応ができた。今後も正しい姿勢、体位交換、清潔保持、栄養状態の観察、体調管理に努め褥瘡予防に施設全体で取り組むことを目指した呼びかけを続けていく。

引き続き褥瘡予防・対応に関する知識を得ていくために、次年度も施設内研修会を開催し早期発見、対応を目指す。

発生した場合は適切な褥瘡ケアを各部署と連携しチームケアとして取り組むこととする。

4 - 4 防災委員会

【 目 標 】

社会福祉施設においては各種の災害時に配慮を要する人が入所されており、その防災対策を確立することが強く要求されている。当委員会では特に火災時の対策に重点をおき、定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員および利用者様の防災に対する意識向上を図っている。

その他災害による人命の安全、被害の軽減、二次的災害発生の防止を目的とする。

【施策・実施状況】

- ・災害時における、水、食料、それらに伴う器具、備蓄に関する管理、維持。
- ・防災ルートの確認、またその際の医務課との連携の確立。
- ・避難訓練の実施。災害時スムーズに避難誘導行えるよう職員への情報の周知への取り組み。

4月	防災委員会活動の伝達
5月	避難訓練計画・自主点検簿更新
6月	自主点検・避難訓練計画
7月	〃
8月	緊急時持ち出しファイル更新
9月	日中避難訓練実施（詳細については下記参照）
10月	台風時災害マニュアル作成
11月	緊急時持ち出しファイル更新・警報機操作マニュアル作成
12月	〃
1月	〃
2月	〃
3月	避難訓練計画（夜間想定）

訓練ごとに委員会にて反省行い、改善点、見直しを会議
各階のヘルメットや拡声器、避難誘導に使用する備品の点検
災害時の際に必要な物品を”非常持ち出し袋”として作成、管理

4－5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

【 目 標 】

感染症・食中毒における蔓延防止委員会は施設全体の基本方針・目標に合致する。社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

1. 利用者様の高齢化・重度化に伴い、感染症・食中毒が利用者様の全身状態に与える影響が大きいことを認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来るよう研修を通じ習得を図る。
2. 利用者様が安心して生活出来る環境を作る。

【 具体的方策 】

1. 感染症に対する抵抗力の弱い高齢者が集団で生活する場にて感染が広がりやすいことを認識し可能な限りの予防対策、発生時には感染拡大防止のため迅速な対応を図る。

- 1) ワンケアワン手洗いの推奨
- 2) 入居者の感染症確認
- 3) 入居者の日頃の健康状態の観察
- 4) 職員の健康管理の実施
- 5) 10月より職員マスク着用開始
- 6) インフルエンザワクチンの予防接種
- 7) 感染症が発生した場合対策の運用実施を担う
- 8) インフルエンザ発症時の施設対応要綱に沿った対応
- 9) 感染症発生時の対応状況の共有
記録・報告にて蔓延予防と次回の感染予防に対応とする。
- 10) 感染症情報の提供（適宜）
公的機関からの情報収集を行い情報発信する。
- 11) 必要に応じてマニュアルの見直し
感染症・食中毒、発生状況・新たな情報に応じて見直しを行う。
- 12) 感染症等発生時期前に注意喚起を促す提示を行う。

【 委 員 】

2. 感染拡大を防止する観点より正しい知識の習得及び啓発を行い衛生管理の励行を推進する。

1) 職員研修

- ① マニュアルに基づき30分程の研修会開催
- ② 稲毛ペコリーノ、外部における研修の受講

2) 定期研修

- ① 感染症及び食中毒の予防蔓延防止のための研修会開催
(2回以上/年)
 - i 主たる感染症(ノロウイルス インフルエンザ)に関する研修
 - ii 食中毒に関する研修
 - iii 手洗い ガウンテクニック等の実技研修

	委員会	活動内容
4月	委員会開催	感染対応グッズチェック
5月		Dengue熱対策 各部署へ声掛け ポスター掲示
6月		食中毒対策の実施(手洗いについて施設内研修)
7月	委員会開催	感染予防呼びかけ
8月		インフルエンザ・ノロマニュアル見直し
9月		インフルエンザ・ノロマニュアル完成
10月	委員会開催	職員マスク着用開始
11月		感染予防対策(グリーンアクアの散布、加湿器設置) ノロ・インフルエンザについて施設内研修
12月	保健所研修参加	感染予防対策の実施・次期事業計画作成
1月	委員会開催	感染予防対策の実施
2月		感染予防対策の実施
3月		総括

事業報告

- ・インフルエンザ発生状況まとめ

職員家族3名

職員自身5名

利用者（特養）1名 計9名 全員インフルエンザA型であった。

- ・園全体の蔓延は防ぐ事が出来た。
- ・タミフル受け渡しについて、利用者以外予防投与が出来なくなった為施設インフルエンザ発生時の対応を一部変更した。
- ・ノロウイルス発生はみられなかった。
- ・インフルエンザとノロウイルス対応ガウンテクニック勉強会を11月に実施した。
- ・2月後半からコロナウイルス対策を緊急で実施
面会、外部業者との接触を早い時点で禁止とし職員への呼びかけを随時行った。
次年度も、コロナウイルスを中心にマニュアルの見直しや対策を具体的に考えていく。
委員会開催随時週1回開催
- ・職員全員がガウンテクニックや感染対策について身に付けられるようにしていきたい。

4 - 6 広報行事委員会

【 目 標 】

- I. 施設行事を開催し入居者、ご家族、地域の方との交流を深め共存していく
- II. 季刊誌を発行しご家族、地域の方たちへの情報提供

「評価」

- 縁日：前年度の反省を生かし、配置、模擬店に工夫を出し行えたが、やはり施設内で行うには事故や、職員不足によって利用者様があまり楽しめなかったとの意見が多数出てきた
 - 敬老会：今年度は昨年同様各ユニットでお祝い膳を召し上がって頂いた歳祝いの方にはエントランス前にて表彰。
ソープフラワーをお渡しした。大変好評であった。
 - 秋祭り：台風の影響により秋祭りは延期となり当日も雨天での決行となりましたが、職員、コラソンによる協力があり無事に終えることができた
模擬店の数、商品の数を見直し、目標を達成できたかと思えます。
 - 餅つき：12月28日に餅つき実演を各フロア、デイサービスをまわり、お汁粉を食べ年越し準備が出来た
 - クリスマス会：各ユニットにホールケーキ1つ・シャンパンを用意し
皆様と一緒に飲んで食べて楽しんで頂けた
 - 新年会：ボランティアで萩野会・千草太鼓を呼び利用者様前で踊りを踊って頂き楽しんで頂けた
 - 豆まき：各階にて豆まきを行い利用者様を含め職員も楽しんで頂きました
- 総評：施設行事は地域の方々、ボランティアの協力を得て無事に終えることができた。
施設行事だけではなく各階ユニットでの行事・レク活動などを増やしていきたい

4 - 7 拘束廃止・虐待防止委員会

【目標】

拘束廃止を目標とすることで、日常業務での取り組みやユニット内での連携において各職員が必要な情報を共有し、施設全体で拘束を行わないサービスを提供する。

拘束廃止を実現していこうとする取り組みにおいて、その過程の中で生じた課題を受け止め、それらをケアの質の向上のきっかけとし、拘束廃止を最終目標とせず、よりよいケアの実現に向けて取り組んでいく。

【具体的な活動報告】

- ・安全対策委員会と合同で会議を開催し（会議時間は1時間）、連携をしながら意見交換、対策協議などを行った。
- ・身体拘束を行う可能性のある入居者に関する現状の把握と、問題に対する対応策の意見交換を毎月行った。

- ・内部研修（※法定研修）を開催した。（1日に2度同内容の研修を開催）

- ① 6 / 24（月） 「虐待防止と身体拘束について」
- ② 11 / 25（月） 「高齢者虐待防止に関して」
- ③ 3 / 9（月） 「高齢者虐待防止に関して」
- ④ 3 / 11（水） 「高齢者虐待防止に関して」

※③・④は重大事故発生に伴う臨時研修（職員全員参加）

- ・外部研修に委員長の篠崎が参加した。

研修名：令和元年度 千葉市高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修 専門実践研修

日 時：12 / 2（月）・12 / 3（火）・12 / 10（火）

研修終了後に千葉市より修了証書を受ける。

【センサーマット使用】

今年度、身体拘束同意書を通しセンサーマット使用した入居者が2名いた。

- ① A・U様 1 / 8（水）～1 / 25（土）まで（入院・退所にて終了）
理由：ナースコール理解なし。ベッドから起き上がりトイレへ行こうとする
が転倒リスク高い。トイレの希望多い。看取り期。
方法：センサーマットをベッド脇に置く / 24時間
- ② T・I様 2 / 29（土）～継続中
理由：ナースコール理解なし。ベッドから起き上がり車椅子に乗ろうとする
が転倒繰り返す。ADL向上見込み薄い。
方法：センサーマットをベッド脇に置く / 24時間

【今後の活動について】

今後も引き続き「生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合は身体拘束が認められているが、当施設では身体拘束を廃止していく姿勢を堅持することを重要とする」という目標を第一として考え、入居者が安心・安全に暮らすことができる環境づくりと生活の質の向上を図っていく。

拘束廃止・高齢者虐待にかかわる介護保険法を遵守し、減算対象とならないようにする。

「拘束廃止」をゴールとせず、個々の課題を真摯に受け止めよりよいケアの実現に向けて行くことを目指していく。

4－8 教育研修委員会

I. 目 標

当施設の法人理念に基づき施設を利用する入所者と共に成長し、当施設で働く全ての職員がユニットケア運営委基準第三十三条にある「暮らしの継続を図る」の基本方針を理解し、その原理原則を達成するために必要な介護の知識並びに技術を習得するために必要な研修を開催することを目的とする。

1. 重点目標

- 1) 当施設で必要とされる研修の開催と参加率の向上
- 2) ユニットケアに関する知識の向上

II. 活 動 報 告

4月：今年度の研修計画検討	
5月：「接遇研修」	参加者 計 18名
6月：「事故予防・安全対策について」「虐待防止事例検討」	参加者 計 18名
7月：「感染症・食中毒予防について」「褥瘡予防・対策」	参加者 計 18名
8月：「腰痛予防・看取り」	参加者 計 15名
9月：「自己理解・他者理解」	参加者 計 12名
10月：「記録の重要性」「理念と介護支援」	参加者 計 14名
11月：「感染対策について」	参加者 計 18名
12月：「事故発生時の対応・記録」	参加者 計 16名
1月：「看取り・地域包括ケアシステムの理解」	参加者 計 22名
2月：「排泄オムツ研修」	参加者 計 28名
3月：「高齢者虐待防止についての研修」	参加者 計 63名

※昨年度同様に研修不参加者のために、各ユニット・部署へ研修資料も配布した。

III. 施 策 評 価

法定研修の開催は求められている回数をそれぞれ実施できたが、参加率に関しては十分な成果は上げる事はできなかった。月に2回、同内容で開催することは今後も継続し、開催日は年間計画を作成した際にメールでの通知と掲示板への貼り出しを行い、テーマの変更を行っても開催日自体は今後も、変更しないようにしていく。(この件に関してはスタッフは周知している)

法定研修は全職員対象(処遇改善加算を取得するには必須であること)という意識自体を、スタッフの一人一人が自覚を持って、研修に望むように進めていくことが必要である。

4－9 排泄支援委員会

【目標】

排泄は非常にプライベートな行為であるため、誰かの手を借りることに抵抗がある。また、失禁などの失敗をしたときにネガティブな状態に陥ったりします。自尊心を傷つけずに生活機能の維持を図る支援を目標に、多職種連携による日常生活動作能力（ADL）の維持・改善に努める。

【施策・実施状況】

多職種協働による支援計画を作成し、日常生活動作能力の維持、改善に努める。

- ③ 排泄支援計画書を作成することが見直され、実施を取りやめることになった。加算も見送りとなる。
 - ④ 年度末にオムツメーカーが再変更になったことにより、オムツの当て方の講習会の開催をした。
排泄表の変更等、各ユニットにお願いし実施できた。
- 3) 入居者にあった排尿・排便時間のルーチン化については、各ユニットにおいてできているととらえ、排泄委員会としては関わらなかった。

【今後の活動について】

今期は排泄と皮膚に関する職員の意識改革に重点をおき、講習会の開催、また委員がフロアの排泄を見回り、適正化を図れるよう支援していくとともに、早期の定着を目指す。また、メーカーの支援も受けながら、排泄のメカニズムや根拠の再学習の機会を設ける。

4-10 入浴委員会

【目標】

1. 入浴の目的 心理的、生理的、社会的、文化的な目的を踏まえご利用者様に安全で快適な入浴を楽しんでいただく。
2. ユニットケアによるマンツーマン入浴により近づける体制づくりに取り組む。
3. ユニット職員と入浴職員間の連携、伝達を確実にを行い、ご利用者様それぞれに合わせた入浴を目指す。

【対策・評価】

1. 年間を通し月ごとに入浴剤や菖蒲、ゆずを購入しイベント入浴に取り組んだ。
特養、ショート、デイサービス共にとても喜ばれた。
皮膚への影響等、問題はなかった。
デイサービスより、濁り湯は足元が見えなくなるため避けたい、との申し出があり、予定していた入浴剤を再度検討した。
2. マンツーマン入浴の取り組みは、ユニットによっては取り入れることができている。
特殊浴では新しい機械の導入によりストレッチャーが一台になりご利用者様と職員の人数を減らすことで、よりマンツーマン入浴に近い体制をとることができた。
入浴方法のマニュアルを作成し、新人職員へ配布し標準手順に基づいたケアを徹底した。
特殊浴の使用法マニュアルを作成し、機械の清掃、整備を徹底した。
3. 入浴担当とユニット職員との伝達を行い情報を共有しご利用者様の体調や状態を把握し、ケアすることができた。
委員会により、各フロアの入浴状況を申し送り職員の人員の調整を行い週二回の入浴を行うことができた。

【考察】

入浴剤を取り入れることによりご利用者様に大変喜ばれた。入浴時の会話や話題に繋がって入浴を楽しんで頂くことができる。今後も入浴剤を継続していく。

マンツーマン入浴への取り組みは人員の確保が必要である。

委員会により今後も各階の入浴状況や問題点を話し合い、全フロアで偏りのない入浴を提供していく。

実施したイベント浴

4月 サクラの湯

5月 菖蒲湯

6月 薔薇の湯

7月 桃の湯

8月 ミントの湯

9月 檜の湯

10月 ワインの湯

11月 みかんの湯

12月 冬至 ゆず湯

1月 林檎の湯

2月 レモンの湯

3月 サクラの湯

5 地域福祉部門

I. 地域カフェ こひつじ（認知症カフェ）

・ 毎月 第二・第四土曜日にて開催し、デイサービス利用者のスタッフとしての参加も継続している。11月の秋祭りや12月の餅つきなどの施設内の行事にも参加して頂きメリハリのあるカフェを継続することができ、地域福祉事業の一環として地域に根差した活動が出来た一年であった。来年度は、利用者の高齢化が進んでおり認知症カフェの目的に更に近づく活動を計画して行きたい。

また本年度より言語聴覚士による講座や体操が新たにスタートし、非常に好評であった。ヨガインストラクターによるヨガ体操も継続して行われている。第四土曜日には、話し合いの題材を提供し、参加者にディスカッションをしていただき、介護に対する不安や疑問などの解消へ繋げられる体制を整えている。

令和元年度 地域カフェ利用者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12人	9人	13人	12人	11人	11人	2人	7人	10人	14人	12人	0人	113人

※10月・第2土曜日 台風の為、カフェ中止

※11月・第4土曜日 秋祭りの為、カフェ中止

※3月・第2、4土曜日 コロナ感染対策の為、カフェ中止

※カフェスタッフ参加者は除く

II. こども食堂

・毎月 第一金曜日、16：30 より開催、毎回4～6名の
 子供達が参加しており、簡単な調理や会話を楽しんでいる。
 来年度は、こども食堂参加者が全員中学生になり、利用予定
 が未定となっている為、継続可能か不明である。

令和元年度 こども食堂利用者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5人	5人	5人	6人	0人	0人	5人	4人	5人	6人	6人	0人	47人

※8月、夏休み期間の為、食堂中止

※9月、夏休み明け直後の為、食堂中止

※3月、コロナ感染対策の為、カフェ中止

令和元年度地域カフェ粗利推移														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第2	売上	2,400	2,800	3,000	2,400	2,750	3,000		6,900	2,000	3,500	3,500		
	仕入	720	1,440	1,200	1,520	1,990	1,600		3,360	1,600	1,600	1,600		
	粗利	1,680	1,360	1,800	880	760	1,400	0	3,540	400	1,900	1,900	0	
第4	売上	3,000	2,300	3,100	3,600	3,500	1,800	2,000		4,100	4,500	4,500		
	仕入	1,200	1,440	1,360	980	1,600	1,140	1,600		1,600	1,600	1,300		
	粗利	1,800	860	1,740	2,620	1,900	660	400	0	2,500	2,900	3,200	0	
粗利合計		3,480	2,220	3,540	3,500	2,660	2,060	400	3,540	2,900	4,800	5,100	0	34,200
事前支払い・口座引き落としのランチ等売上は含まず。概ねの利益														
こども食堂粗利推移														
		4月	5月	6月	7月	8月休み	9月休み	10月	11月	12月	1月	2月	3月休み	合計
	売上	1,500	1,500	1,500	1,800	0	0	1,500	1,200	1,500	1,800	1,800	0	
	仕入	3,016	2,532	2,945	2,375			2,388	3,415	3,026	3,386	3,396		
	粗利	-1,516	-1,032	-1,445	-575	0	0	-888	-2,215	-1,526	-1,586	-1,596	0	-12,379
	地域交流粗利計	1,964	1,188	2,095	2,925	2,660	2,060	-488	1,325	1,374	3,214	3,504	0	21,821

Ⅲ. 買い物支援

・毎月・第一第三金曜日、10：30 よりスタート。当施設のドライバーが運転する送迎車に地域住民の参加希望者と買い物に同行する協力員が乗車し、買い物の支援を行った。千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所主導のもと当施設・自治会・民生委員・社会福祉協議会の4者で協定書を作成し、支援実施日には千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所の担当者も同行し、対応にあたっている。

本年度は、萩台町わかば自治会より参加者が増え、ゴールデンウィークやお盆、年末年始など連休に掛かる金曜日には週を変えて、参加者に不便の無いように調整を行った。

6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

I. 介護人材の輩出と育成

1、実施状況

講座名	クラス	受講生	合計(延べ人数)
介護職員初任者研修	13	80	366 (昨対 86%)
介護職員実務者研修	13	80	
福祉用具専門相談員	8	47	
同行援護研修(基本・応用)	9	90	
レクリエーション介護士2級講座	2	5	
介護福祉士試験対策(対策・直前対策・模擬)	6	64	

※通常講座以外の取組

- ・千葉県委託事業の受託 介護に関する入門的研修
母子家庭の母等に対する就業支援講習会
- ・千葉市委託事業の受託：母子家庭等就業支援介護職員初任者研修講習
- ・JICE（仕事に必要な日本語支援団体）との連携による職場講話 4回
- ・出張講座の開催（実務者研修：木更津市 介護福祉士試験対策：東京）
- ・若者サポートステーションからの講師招聘（接遇マナー講習）
- ・千葉県介護の未来案内人の受入誘致
- ・ハローワーク職員の職場視察の誘致 及び 説明会への参加願い など

2、振り返り

昨年対比では、受講者・売上とも減少。主な要因は、介護業界への就業希望者の減少、大手競合他社の千葉駅出店による影響等が大きい（0円受講後に人材紹介のビジネスモデル等）。打開策として、固定法人との連携強化・主婦層等にターゲットを絞る、複数受講でのセット割引、紹介キャンペーン等も実施したが、厳しい結果となった。特に、講座の中でも利益率が高く、昨年好調の2講座（実務者 60.1%、福祉用具 56.6%）の落ち込みが響いた。

一方、行政の委託事業に対する積極的な企画提案（公募）により、3件を受託、実施するに至った。また、委託事業による他市との交流、JICE（仕事に必要な日本語支援団体）、千葉市困窮者自立支援等との連携などを、新たな人材輩出、学習モデルの構築のきっかけとしたい。

II. 地域福祉を支えるセミナー

1、実施状況

開催	連携	対象	内容
4.8.12月	敬愛大学生涯学習センター	地域住民	家庭で活かせる介護技術ほか

※参加者：合計 22 名

2、振り返り

昨年に続き、敬愛大学との連携により、当該大学の生涯学習講座にて実施。

有料講座（4,500 円 ※大学設定価格）も導入したが、定員 20 名に対し、参加 3 名と有料開催での集客は落ち込んだ。今後は、無料講座もしくは、ワンコインなどの気軽で役に立つ・関心の高い講座を独自で開催を検討、受講者に対して、短時間での介護アルバイトに誘導したい。

III. 学習支援事業

1、実施状況（年間の利用者数）

	児童・生徒数
小学生	13 名
中学生	1 名
高校生	0 名

2、振り返り

利用者は、少数ですが、千葉市が取り組んでいる放課後のこどもの居場所として、地域の役割を担う事業として評価を得ている。稲毛区のこども家庭課からの紹介、千葉市こども未来課のホームページより訪ねてこられる親御さんなどもある。大人数が苦手という子どもの利用もあるが、常時 6 名程度の利用を見込むことで、継続的な事業としたい。

千葉市からの誘いである「どこでもこどもカフェ」に参画することで、地域・教育委員会などへの広報に取り組みたい。

社会福祉法人初穂会 事業報告

編集：稲毛こひつじ園 事務課

令和元年年 月 日発行